都市の風景「阪和貨物線跡」

『市政研究』217 号、2022 年 10 月の巻頭「都市の風景おおさか」は、阪和貨物線跡（大阪市平野区）。かつて関西線久宝寺駅から阪和線杉本町駅に至る貨物線だった。天王寺を経由せず両線を結んでいたことから特急列車や臨時列車が走ることもあったという。

都市の風景 おおさか

大阪から奈良へと続く幹線道路を車で走っていると唐突にそれは現れた。廃墟感たっぷりの途切れた高架橋。大阪の端っことはいえここも都会のうちだ。そのあまりにも不似合いな風景に驚いた。これは2009年に廃線になった阪和貨物線跡だという。いったいどんな廃線跡なのか。気になって起点となる平野区加美の線路分岐点から廃線の高架に沿って歩くことにした。

まずは分岐点近くのビルから眺める。起点らしきところには雑草が生い茂り、そこから延びる線路もほとんど土に埋まっている。それでもところどころレールが顔を出し、その存在を示している。

盛土の高架は緩くカーブを描きながら先に続く。住宅も工場も高架に寄り添うように建ち並び、背の低い高架橋の下を人や車がのんびりくぐり抜けていく。貨物列車が走っていてもいなくても何も変わらないこの町。どこか懐かしさが漂い、今は用をなさない色あせた標識さえとうに町の風景だ。

今日の終着点はくだんの途切れた高架橋。ブンブン車が走る道路の下から見上げると、名前も知らない草たちが顔をのぞかせ時の流れを教えてくれた。

（文・写真／機関紙編集者クラブ・北村智子）

だが、2004 年に休止、2009 年に廃線となった。過疎地のイメージがつきまとう廃線だがこの大阪市内にもあちこちに。1980 年に廃線になった南海平野線や 2016 年に廃止になった阪堺上町線の住吉―住吉公園間など。だが廃線跡として残っているのはここだけかもしれない。

（なお、ネットによると阪和貨物線は関西線の八尾駅と阪和線の杉本町駅間のようであるが?）

下の写真 2 枚は、大阪公立大「杉本図書館」の帰りに撮ったものだ。阪和貨物線跡の杉本町駅近くの風景。左が八尾、右が杉本町方面。貨物線跡を通って、地下鉄「あびこ駅」に向かう。最近は腰痛の影響もあって、ついバスに乗ってしまうが。

阪和貨物線跡に注目するのは、遠い昔の記憶による。

何回もレポートしているように、信州大をなんとか卒業して、親の反対を押し切って、大阪市立大の大学院をめざして貨物線近くに下宿した。宮本憲一先生『社会資本論』に憧れて、先生のもとで学びたかったからだ。とにかく大学近くに下宿して、お金がないので「もぐり」で、大学院ゼミに参加させてもらった。2 年にわたる浪人時代には、朝から晩まで図書館を利用した。信州松本で大学生活を過ごしたこともあり、大阪の夏の暑さはこたえた。下宿には扇風機もなく、寝苦しい毎日がつづいた。図書館のクーラーにより、なんとか寝不足の夏を乗り切り、2 回目の入試でようやく合格できた。下宿のおばさんに涙ながらに喜んでもらえたことも忘れられない。

半世紀前余り前のことだが、下宿から大学に行くときに通ったのが、阪和貨物線だ。当時は長い貨物列車などもよく走っており、踏切で待たされたことを覚えている。住宅近くを通る貨物列車から、岐阜県高山市で過ごした線路近くの生活を思い浮かべた。

今も阪和貨物線跡を通って、昔を思い出しながら大阪公立大の図書館に通っている。

（2023 年 1 月 18 日）